

第5章 愛媛の現状と社会の転換

3. 全県一律な規模・規格からの脱却 — 効果発現のスピードアップ

早期整備が求められる愛媛の道路

山間部の道路で対向車と出会うとすれ違える場所までバックで戻らなければならないことがあります。せり出した山肌で急カーブの先が見えないところでは、対向車が来ているか不安になります。このような道路では、待避所まで戻る時間のロスや走行速度の低下のために目的地までの所要時間が余分にかかってしまいます。このような地域では、消防車や救急車による緊急活動にも支障をきたします。地域の住民の生活や安全を守るために、このような道路は一刻も早く整備をすすめなければなりません。

これまでの道路整備は、全国的に統一された基準で行われており、原則として2車線で整備を進めてきました。また、その際に適用される道路幅員や道路線形等の構造・規格についても、概ね中程度以上のものを適用してきました。しかし、現在の財政状況において、従来通りの整備の仕方では、早急な対策が必要とされている箇所の整備がスローダウンし、地域住民の生活が不便なままとなります。そこで、愛媛県では従来の整備手法を見直し、「1.5車線の整備」、「道路の利用状況に応じた構造・規格の見直し」といった新しい整備手法に切り替えることに加え、「時間管理」を徹底することで工期の短縮を図り、早期供用による整備効果の早期発現と併せて事業コストの縮減を図り、道路整備の効率化を目指します。

●中山間地の未改良の県道における離合困難な状況



効率化により道路整備効果を早く発現させる

愛媛県における道路整備の最終目標は、県下全域におけるすべての道路の整備の完了ですが、道路整備の効率化を図るため、当面の課題の解消を目的として、暫定的な規模・規格を適用した整備を行うこととし、ある程度のサービス水準で、より安価に短期間で提供する方向へと転換していきます。なお、ここでいうサービス水準とは、道路整備の結果として向上する走行時の安全性や快適性などといった道路が備えるべき機能を指します。

ここで、新たな整備手法を導入した場合と従来通りの進め方で整備を行った場合の事業期間と整備によって得られるサービス水準を比較してみます。

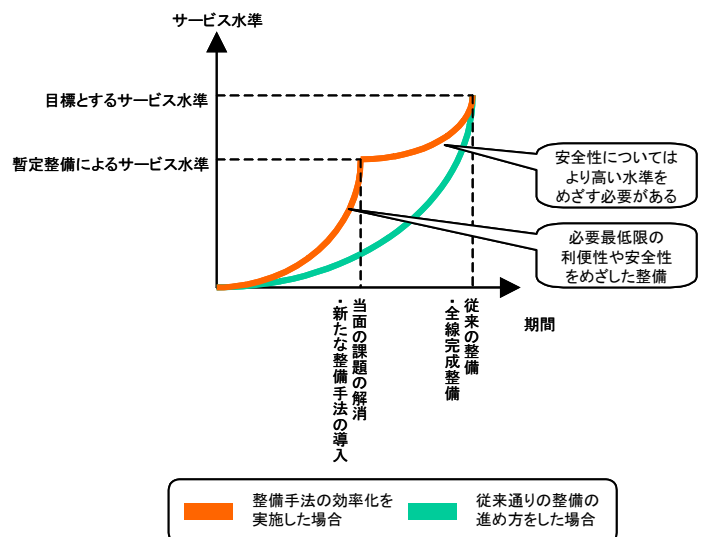
従来の整備では、全線を2車線・一定水準の規格で整備するため、完成すると目標とした道路整備の効果が全て現れますが、効果の発現までの事業コストが大きいだけでなく、サービスの提供が可能となるまでの期間も非常に長くなります。そのため、工事期間中における一般の交通への影響も大きくなります。

一方、新たに導入する手法を適用して整備を行った場合は、見通しの悪い急カーブやすれ違いが困難な箇所等、局部的に問題を抱えている箇所を集中的に整備するに留まるため、従来の整備におけるサービス水準よりは劣るものの、必要とされる工期ははるかに短くなり、ある程度のサービス水準が短期間で提供できます。また、状況に応じて柔軟に構造・規格を設定することにより事業コストの縮減につながり、同じ費用でより多くの箇所を整備することが可能となります。

このように、道路整備の効率化により、当面求められるサービス水準をより早くより多くの人へ提供できるようになります。

そして、全ての地域で最低限のサービス水準が確保されたのちに、最終目標をめざして整備を進めていきます。

●効率化による早期効果発現のイメージ



整備手法1 - 愛媛県の「1.5車線の整備」

「1.5車線の整備」とは、1車線と2車線の中間の道幅で整備を行うことを意味するのではなく、従来の2車線整備にこだわらず、交通量や沿道状況、地形などから判断して、2車線で整備する区間、1車線で整備する区間、局所的な整備で対応する区間を設定し、それらを組み合わせることで当面の課題への対処を従来よりも早く安価に行うという新しい整備手法です。

「1.5車線の整備」の手法を導入することで、従来の2車線で連続して整備を推進する場合よりも得られる利便性は小さくなりますが、効果発現までに、より安く、より早く整備を進められ、整備による効果を短期間で得られることから、問題を抱える箇所をより多く整備することが可能になります。

●愛媛県の1.5車線の整備のイメージ図

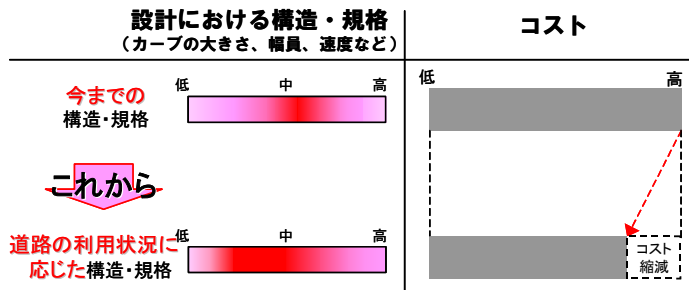


整備手法2 - 道路の利用状況に応じた構造・規格でより早いサービスの向上

従来の道路整備では、地域や道路の利用状況に関わらず一定水準のサービスが得られるように、概ね中位の構造・規格（カーブの大きさ、幅員等）を適用して整備を進めてきました。しかし、厳しい財政状況が続かなか、より多くの道路利用者へより早くサービスを提供するためには、効果的な道路整備をすすめていくことが重要となります。

そこで、構造・規格を検討する際に道路が持つ性格や利用状況を勘案して、サービス水準が極端に低下しない範囲で最適な構造・規格を選定し、コストの縮減、県下全体の整備のスピードアップを目指します。

●事業期間と道路利用者の満足度の関係（イメージ）



整備手法3 - 早期の利用を目指した進め方で地域の期待に対応

県民アンケートでは、「工事の期間が長い」、「工事箇所が多く、通行が不便である」といった整備途中の段階に対する不満が寄せられました。また、工事期間が長引けばその分だけ整備効果が現れるのが遅くなることとなります。

これからは、より早く供用できるように適切な工事の規模を設定していきます。そして、工期を短縮することによって、事業効果の早期発現、事業コストの縮減を図り、道路利用者の期待に早く応えていきます。